

私たちの言葉残せますか？伊豆方言の調査と実態

Cluster analysis for usage frequency of Izu dialect.

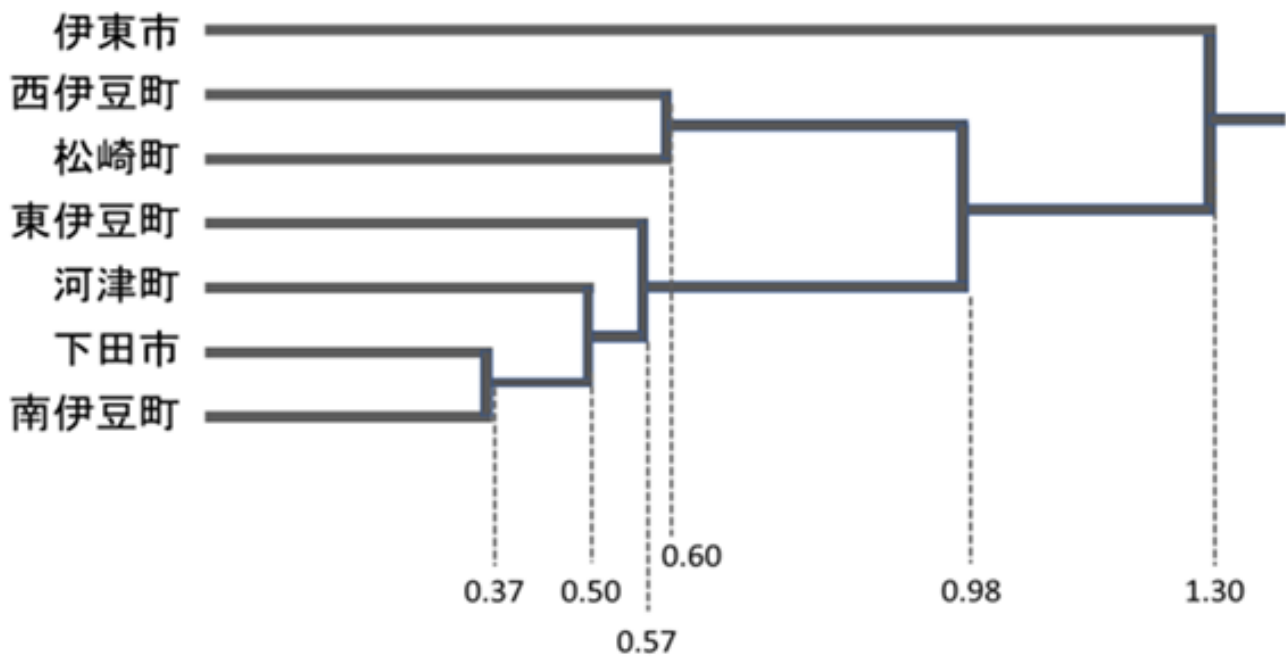
*進士 実花子¹、*土屋 奈織子¹、土屋 巧海¹、高田 陽斗¹、柚田 唯生¹、村上 遼¹、吉田 亮祐¹
*Mikako Shinji¹, *Naoko Tsuchiya¹, Takumi Tsuchiya¹, Haruto Takada¹, Yuiki Yuda¹, Ryo Murakami¹, Ryosuke Yoshida¹

1. 静岡県立下田高等学校
1. Shimoda High School

学校・放送・新聞などで広く用いられる標準語とは別に、日本では各地に様々な方言が存在する。海と山の幸の両方に身近な伊豆半島で育った私たちは、静岡県下の近隣2市5町（下田市・伊東市・東伊豆町・河津町・南伊豆町・松崎町・西伊豆町）の住人976人を対象にして、地元の方言32語の認知度を調査した。近さをユークリッド距離で定義し、階層クラスター分析をしたところ、方言の認知パターンは、下田市と南伊豆町が最も似通っていて、伊東市は離れていること、伊豆半島の西海岸には東海岸とは異なるクラスターがあることが判明した。ここでは、さらに蛇石峠やバサラ峠といった地形、産業および行政史に基づく考察を報告する。

キーワード：方言、人文地理学、日本語、伊豆半島、クラスター分析

Keywords: dialect, human geography, Japanese, Izu Peninsula, cluster analysis



〔図1〕 クラスター分析で調べた7市町の方言分布の近さ。数値は伊豆方言32語の認知率（0以上1以下）からユークリッド距離で算出。

認知率	しょんない	切ない	線引き	たこる	～だら～ら	～だらじゃ	ちょんぼ	～っけじゃ
伊東	0.240	0.345	0.845	0.097	0.919	0.182	0.221	0.221
西伊豆	0.783	0.289	0.843	0.145	0.916	0.663	0.819	0.566
松崎	0.726	0.323	0.823	0.065	0.903	0.565	0.855	0.581
東伊豆	0.150	0.325	0.850	0.025	0.850	0.500	0.700	0.425
河津	0.291	0.549	0.912	0.088	0.863	0.533	0.775	0.500
下田	0.305	0.514	0.853	0.136	0.848	0.582	0.790	0.362
南伊豆	0.319	0.361	0.806	0.083	0.833	0.611	0.764	0.431

〔図2〕 特徴的な伊豆方言8語の認知率（0以上1以下）。各数値の枠内を、認知率0.25以上0.50未満は薄い灰色（■）で、0.50以上は濃い灰色（■）で塗りつぶしてある。